校長ヨリ府縣廳ヲ經テ身元引受人ニ渡ス○第八十二條第一號身元引受人ヲ命セラル、者ハ第一號身元引受證書ニ第二號族籍書ヲ添ヘ身元引受人ヨリ機關學校ニ出ス可シ

身元引受證書

何府縣華士族平民　戸主或ハ何某男父ハ兄弟伯叔甥附籍　姓　名

之者海軍出身志願ニ依テ御試驗之上今般御校生徒ニ御用被成下候ニ付テハ本人身上之儀ハ何事ニ不限私共引請御規則之通御處分相受可申候尤モ私共之内公事出張私事行等致候節ハ必ス代人相立御差支無之樣可仕候仍テ如件

年號月日

何府縣華士族平民　何府縣何郡區何町村何番地住或ハ寄留　身元引受人　姓　名　印

同　同　姓　名　印

海軍機關學校長　官姓名　殿

第二號族籍證書式（用紙美濃紙二ツ折）

族籍證書

原籍　姓　名

〔何府縣華士族平民戸主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附籍〕

所住　〔國郡區町村番地ヲ詳記ス寄留ノ者ハ寄留先ノ住所モ亦詳記ス可シ〕

父母名　〔養子ハ養實共ニ之ヲ記シ亡ナレハ亡ト記シ父兄官位勳アレハ存亡共ニ之ヲ記ス可シ〕

兄弟名　〔養子ハ養實共ニ之ヲ記シ亡ハ記セスシテ可ナリ〕

姉妹名　〔養子ハ養實共ニ之ヲ記シ亡ハ記セスシテ可ナリ〕

父母名

之通相違無之候也

年號月日　身元引受人　姓　名　印

同　姓　名　印

何府縣華士族平民

姓　名

海軍機關學校生徒申付候事

年號月日　海軍機關學校

第三十八條　生徒ヲ命セラレタル者ハ第三十八條ノ趣旨ニ基キ左式ノ誓約書ニ署名捺印シ其志操ノ確實ナルヲ證スルム

誓約書式

誓約書

海軍出身志願ニ依テ今般機關學校生徒被命候ニ付テハ自ラ御規則嚴重ニ相守リ卒業ノ後ハ誓テ海軍ニ從事可仕候ニ付誓約如件

年號月日　姓　名　印（畢）

叙任賞勳

十一月四日分

旨ヲ以テ正七位ニ被叙候事

十月三十一日分

從五位　正六位勳五等　朝倉　盛明

正七位　從七位　小國　磐

十月十一日分

從七位　三村　清景　武司　任重　川上　新起

十月十日分

陸軍砲兵大尉　陸軍砲兵中尉從七位勳五等　細害　孝成

陸軍砲兵中尉　陸軍砲兵少尉正八位勳六等　萩谷　德善

陸軍砲兵中尉　陸軍砲兵少尉正八位勳六等　大村一二一

陸軍砲兵中尉　陸軍砲兵少尉正八位勳六等　石原　氏基

八月二十一日分

海軍中軍醫　海軍少軍醫正八位　秩父　克然

十一月十一日分（正誤）

農商務權少書記官兼參事院員外議官補　正七位　藤野　綱

任山林學校長教授

兼參事院員外議官補

時事新報

士族授產（昨日ノ續）

士族ハ兵馬ノ人種ニシテ之ヲ軍職ニ任シ以テ强兵ノ用ニ資スルハ最モ其當ヲ得タルモノナリト雖ドモ士族ハ多キニ過ギテ軍職ハ少ナキニ過クルヲ以テ到底兵事ハ授產ノ用ニ十分ナリ難シ云フベカラズ又士族ハ高等ナル文事ノ教育ヲ受ケテ政治ノ思想ニ富ミ活潑ナル精神ヲ有スト雖ドモ以テ生計ニ適用スルノ便ヲ得ズ古今左右ヲ顧ミテ空シク不滿ノ想ヲ增スニ過キズトイフハ我輩既ニ之ヲ前日ノ紙上ニ評論シタリ然ルニ其方法ノ難易ニ拘ハラズ兎ニ角ニ士族ハ授產セザルベカラズ之ニ授產セザルハ國ノ大計ヲ誤ルナリト定マリタル以上ハ今日ニ於テ最モ適當ナリト思フベキ方法ヲ求メテ速カニ之ニ着手スルヿ肝要ナルベシ

或ハ商社ヲ起サシメテ之ニ充テントスルカ商業ハ士族ノ最モ不得手ナル所ニシテ樵夫ヲシテ魚ヲ捕フシムルノ類ニ近シ士族ノ授產ニ適セザルナリ或ハ荒野ヲ開墾シテ農利ヲ得セシメントスルカ士ト農トハ幾分カ相似タル所アリ且ツ農業ハ商業ノ如ク特別ノ熟練ヲ要スルモノニアラザルヲ以テ或ハ其當ヲ得ルニ近カルベシト雖ドモ春耕夏耘元ト武士ノ能スル所ニアラズ在來ノ熟田ヲ耕サレムルモ尙其力ノ足ラザルヲ憂フ況ヤ新ニ地ヲ開キ應分ノ取穫ヲ得ントスルハ固ヨリ生兵法ノ企テ及ハザル所先例ニ依ルニ損得相償フモノハ僅ダ少ナキナリ依テ今我輩ノ知ル所ニシテ最モ士族ノ授產ニ適當シタルモノハ養蠶製糸ノ業ナリ

抑モ養蠶ノ業タル非常ニ多量ノ人工ヲ要スル順序ヲ逐フベキモノニシテ最モ文明國人ノ生計ニ適當シタルモノナリ田ニ稻ヲ作リ園ニ茶ヲ植エタリトセンカ稻ニ實ヲ結ブヿ之ヲ米ト云フ其米ヲ取リテ之ヲ精白シ吾人ガ日々食フ所ノ飯ト成ルマデニ要スル所ノ人工ハ格別多量ナルモノニ非ズ又園ニ植付ケタル茶ノ葉ヲ摘ミ之ヲ爐ニ焙シ精製シテ吾人ガ朝夕飲用スル煎茶ト成ルマデニ要スル所ノ人工ハ是又格別多量ノモノニ非ズ然ルニ彼ノ桑ノ葉ハ決シテ然ラズ既ニ畑ニ在ル時尋常ノ作物ノ如ク農夫ノ手入レ培養ヲ要シタル後養蠶所ニ至リテ蠶兒ノ食料ト成ルノ間又大ニ人工ヲ要ス此手數ヲ丁寧ト成リタルトキハ既ニ幾分ノ價格ヲ增加シタリ更ニ製糸所ニ至リ生糸ト成ルノ間更ニ又莫大ノ人工ヲ要シ隨テ又其價格ヲ增加シタリ生糸ヨリシテ織物ト變シ又時好ノ染色ヲ得ルニ至レバ人工ヲ要スルト共ニ價格ノ增加スルヿ容易ナラズ終ニ錦繡綾子天鵞絨等ノ如キ最多量ノ人工ヲ要スル織物ト成ルニ至リタルトキハ回顧シテ其ノ發ヤノ寡ヲ見ルニ其物質ノ精粗價格ノ高下ノ甚ダキ即嘗前身タルヿヲ窮ルナルベシ人工ハ即チ金錢ナリ以テ富國ノ用ニ乘ノ如ク比類ナキ利益ハ其ノ人種ノ明白ナルベシ人情ニ富ミ貧富ノ區別ニ非ザルヿ言ハザルベカラズ明白ナルベシ人情ニ富ミ貧富ノ區別ナク以書相春ノ服飾ヲ好ムハ世界万國殆ンド一樣ナラズ佛蘭西、伊太利、土耳古、墨國及、波斯、印度、支那、日本等ノ數國ヲ以テ世界ノ養蠶地ト稱シタルモノ、如ク之ヲ除クノ外ニ桑ヲ產スルノ國ハ實ニ計ルニ足ラズ幸ニシテ我日本ハ北ノ方北海道ヨリ南ノ方九州ニ至ルマデ桑樹ノ成長ニ適セザル土地ナク万國交通貿易目在ノ今日ニ於テ食料ノ手當ニ輸入ヲ仰キテ差支ナキ以上ハ全日本國ヲ一面ノ桑園ニ變スルモ苦シカラザルベク養蠶ノ業ヲ盛大ニシテ其人工ヲ用ルノ極度緞子天鵞絨マデニ織立テ、世界ノ需用ニ供給スルヿトナレバ在來我日本ノ土地ヲ以テ二百万ノ士族ハ勿論更ニ數千万ノ士族ヲ輸入シ來ルトモ豈カニ衣食住ヲ給シテ必ズ餘リアルベシ

以上述ル所養蠶ノ利益ハ特ニ士族ノ爲メニノミ然ルニアラズ全國人民何人ノ爲メニスルモ皆然ラザルハナシ然ルニ我輩ガ特ニ此業ヲ以テ士族ノ產業ニ適當ナリト云フハ抑モ亦既ニ屢シ士族ハ從來四民ノ上頭ニ位シ彼ノ農夫ガ田圃ニ耕シ商人ガ店頭ニ牙籌ヲ執ルヲ見テ之ヲ賤蔑シ曾我ヨリ下等ノ人種ナリトシテ之ヲ齒スルヿヲ肯セサリキ然ルニ一旦ノ機變ニヨリテ其常職ヲ失ヒ其常祿ヲ滅セラレ忽チ其生計ニ困却シ前日我ガ賤夫視シタル農商民ニ就テ哀ヲ乞フノ慘狀ニ陷リタリト雖ドモ心中尙ホ武士ノ魂ナルモノ、存スルアリテ一点不安ノ思ナキヿ能ハズ宇宙ハ一大活劇場ニシテ且タリ手翻覆昨日ノ榮枯大小ハ今日ノ前掛矢立農商民ト伍ヲ成スニ何ノ憚ル所カアラント立氣ニ悟道シ得ル程ノ大勇豪膽ノ人ニ乏シキヲ以テ遂ニハ理非損得ヲ顧ミズ武士ノ意地ヲ押通サントスル者ナキニ非ズ一概ニ之ヲ論スレバ無理ナル意地ナリト云テ止ムベキ樣ナレドモ渾身意地ヨリ成立ナ來リタル武士ニ向ヒ俄カニ其意地ヲ折ラントスルハ切テ大害ヲ激成スルノ所置タルガ故ニ必ズヤ漸ヲ以テ此意地ヲ疎通スルノ手段ヲ求ムルヿ責任經國家ノ本願ナルベシ今養蠶製糸ノ業ヲ見ルニ農商ノ臭氣ヲ帶ビタルハ勿論ナリト雖ドモ全農全商ヲ距ルヿ甚ダ遠ク從來社會ニ敬視セラル、ノ產業タル性質ヲ失ハザルナリ現ニ今日雖ドモ皇后ノ宮ニハ禁園ニ成ラセラレ華族ノ子女ガ養蠶製糸ノ技ヲ御覽アル節モ其一例ニシテ士族ノ妻女ガ此業ニ從事シタリトテ毫モ赤面スベキ理由ナシ又彼ノ桑園ノ榮既ノ如キモ尋常ノ作物トハ大ニ其趣ヲ異ニシ士族ノ父兄ガ桑樹ヲ培養シタリトテ毫モ恥ニ恥ルヿナカルベシ則チ尊敬ト割拔トヲ共有スル一種無類ノ農業ニシテ士族ノ生計ニ最モ適當ナルモノト云フベシ故ニ我輩ハ政府ニ向テ大ニ士族授產ヲ勸誘セラレンヿヲ希望シ其方法ハ養蠶製糸ニ從事スルヿニ優ルモノナキ

コヲ忠告シ此二百万ノ高籍人種ヲ救拯シ去ヲ治世ノ森賊タルニ至ルコトナカラシメンコヲ願ル者ナリ（畢）

雜報

○新嘗祭　来る廿三日宮中ニ於て執行在らせらるゝ東宮殿の御式に準じ同日午後六時を以て御祭事始めの儀調整、大臣、参議、各省長次官参内御神殿大床に参集御饗在らせられ御親祭畢て諸親王始め百官拜記午前十時再び祭官神殿を装飾し本年豊稔の感謝の意を供し奉る此時　聖上より祝詞を御奏上ありて午前一参議又第三の御親祭畢るの後ち百官再び拜記夫より終夜の御神事ありしと聞く

○西郷農商務卿　同君には先般山梨縣下へ出張せらるゝ成ろ去る十二日　先づ歸京せられ自郷ニ三日間休息せられ去る廿四日群馬縣下聯合共進會視察の為め再び出發せられ

○徳川家達君　同君には過日静岡なる饗応宴に参列ありて夫より父子同道にて久能山へ参詣されたる由なる御文調整ありて歸京され天機伺として参内さるゝやに聞く

○黒川陸軍少將　中部檢閲使として過般大阪鎮台各分營所へ出張せらるゝたる黒川陸軍少將には帰京後所とも檢閲濟ニ付多分本日神戸御出帆の彌船にて歸京さるゝといふ

○櫻井内務大書記官　櫻井社寺局長ニは近々の内京坂及び山陽地方なる官幣大社等を巡視の為め出張

○田邊外務書記官　過般兵庫港歸朝支那北京日本公使館代理たりし同君には今回榎本公使赴任に付吉田書記官と交代し此程既ニ歸途に就かれしよし

○中村彌六君　同君ハ去る十二年中大藏省御用掛にて在りし時獨乙國山林學研究として同國へ留學を命せられ同年七月中出發し爾後研學怠りなく本年六月博士の學位を得て歸朝ニ就かんとせし時恰も伊藤博文の憲法取調御用掛を命ぜられ同君へ右取調ニ從事されしも既に取調事務終了し之に付伯林府を發して去る五日佛京巴黎へ出張した者電報ありしといへり

○本邊[illegible]

○山田宗義　大藏權少書記官山田宗義君ニ過日議事部代理を命ぜられ議事部代理ニ付[illegible]

○尾越書記官　内務省社寺局勤務尾越少書記官ニは昨日大和國奈良へ御用として出張を命ぜられ

○檢事出發　函館控訴裁判所ニて從來檢事[illegible]名の

みありしが此度上京されし同所長青木判事より右にて不都合なる聞上申されしに依り檢事中村修君が同所詰を命ぜられ不日同地へ出發さるゝ由

○共同運輸會社　同會社々長の月俸ハ金四百圓副社長ハ金三百五十圓と此程議定せしといふ

○佛國政府の節儉　同政府は李國と戰爭以後ハ節儉を專らとなせしが過般來は殊ニ節儉に注意し各國派出の公使館へ右の趣を内報し我國駐在の公使へも同樣内報ありたりしと聞けり

○清國公使　同公使は一昨日午前十一時四十五分横濱着の汽車にて同港の清國領事館へ赴かれたり

○朴泳孝氏　同氏ハ参朝以來日ニ見聞する所のものを筆記されて一冊の日誌を編纂し歸國の上國王に呈せらるゝ積りなりと

○佛哇國公使　同公使ヴヨン、マキコ、カペナ君ハ本日午後二時参内謁見の上國書を奉呈さるゝと又同時に農商務省御雇米國人ブラウン氏も滿期解任ニ付参内謁見を仰付らる扨又布哇公使ハ昨日書記官と共に外務省へ出頭され當日和蘭公使の催ふされし延遼館の宴會へも臨席されたりし

○大審院　同院にて刑事上告の公庭ハ久しく休庭ニあり居りしが來十七日より愈々開庭にあるといふ

○華族院　華族部長局を近く華族院と改稱せらるゝに付目今宮内省及び同族中に於て事務章程等を取調中なりとかいへり

○伸縄縣支廳　同縣下ニては未ニ區郡役所の如きものを設置されざるに依て縣民の便利を計り近く管下便宜の地を撰みて數ヶ所ニ支廳を設けらるゝことを目下協議中なりし

○中央衛生會　内務省に於ては昨日中央衛生會議を開かれたり同日の議目ハ豫て議事中の醫事規則並びに同編制規則の兩條ありしといふ

○天保山砲台　大坂府下天保山砲台ハ先月中の暴風ニ為め破損所有之に付近く修繕ニ着手さるゝよしニて昨日陸軍省より掛官數名同地へ向け出張されしよし

○参事院審理委員　同院公事載定ハ御用掛さる審理委員ニ是迄委員長以下五六名ありしが不日委員の數を増加さるゝといふ

○磐城艦　過日より兵庫港に碇泊せし磐城艦ハ來酒類雜品を積込み去る十一日朝鮮仁川港を向け出帆したり

○韓地貿易事業　某く朝鮮國と通商貿易の條約も結ばれ英米獨三ヶ國ありて來十六年一月早く元山、釜山、仁川の三港へ領事館を新築する積りなりといふ

○スナイドル銃製造　某て京都祇園町に住居する士族を以て其名を知られたる上田丈助ハ數年の積み此の程スナイドル銃を製造するあるを聞き此れこと早くも其筋へ聞えけれと其筋ハて製銃を試驗せられしに甚ち工合よき出來あるを聞き早速五十圓の月俸ハて陸軍省へ雇入れらるゝ大へ廻さるゝあるとゝありたりとの

○朝鮮通信（十一月四日釜山港發）

去ぬる十月二十九日は變乱後自日ニ當るニ付兵中尉海津三雄氏祭主と成り死難十三名の追悼執行さる此日は天氣も最と晴朗ニして殊ニ日れと領事始め軍艦乘込の士官及び貿易商人等場ニ集まり爲めニ廣大なる式場も立錐の餘地し祭主海津中尉左の祭文を朗讀せらる

維明治十有五年十月巳亥朔生魄越二日辛丑兵中尉從七位海津三雄以清酌庶羞之奠祭於陸軍工兵中尉堀本禮造及參謀本部生徒岡内平之進等凡十有三人之靈嗚呼

人棄妻子　離父母鄉　深入不測　既可以傷
況一朝倉皇　忽爲厲鬼　厥慘可量　惟斯朝鮮
建國雖遠　運尚蒙昧　以厥位歸　一葦樣界　我
友愛孔至　茲蠢有衆　彼頑木强　憤怨積蓄　禍
仇視大邦　相鬩蕭牆　不奚干內　亘及他方　維七
匪徒犯闕　包休呼號　山壞海裂　圍我公衙　如
逞念及此　倘堅毛髮　當斯倉皇　靡有長策　健
一以當百　其惟如何　衆寡不敵　吞恨懷怨　暴
嗚呼哀哉　事關京師　士庶腕撫　或擲生產　或
帝赫斯怒　斯整厥旅　艨艟如山　武夫如虎　使
不蹟厥武　捕訊獲醜　膺懲是舉　韓王深懼　戴
戴差特使　以謝迷惑　綱綱斯就　舊好更申　庶
以慰怨魂　嗚呼禮造　予之與君　氣類相適　攜
實爲莫逆　高山流水　齒明忽隔　絃既可絕　琴
君創訓練　嘲罵百方　[illegible]　後來維望　歲
後焉忽亡　厥骨嶷朽　厥勳尚香　與君別後　忽
生不赴難　死不哀憐　靈不得送　尸不得換　望
有限如雨　嗚呼岡內池田　爾性敏捷　克
大望後來　曾闕今日　沃若厥英　嶄然厥角　臨
欲寢而劍　花多風雨　月有浮雲　理固如此　吁
嗚呼哀哉　尚饗

續て祭文を朗讀し演說を爲す者多人數ありしに其說皆な慷慨激切ニして聽く者をして涙に咽ばしめ終て宴會を開き夜に入て無數の球燈を點し開港來の盛會なりき○當港ニては有志の者醵金し今度京城仁川にて難ニ死せし者の記念碑を建てして發起人の目下奔走中なり○韓人の風說ニ王の生父大院君は目下支那に於て銀字在錄書大司馬大都督書國公文昌君の官職を受けし朝鮮國王李熙殿下にも兵部尚書朝鮮國王れ官なりと云ふ○商況ハ漸く回復の模樣あり十二月ハ北すれば先の甲乙おきやうに思ハる○寒